

【山崎名誉主宰の俳句】

最終章

山崎 聰

いちにちは東京におり春の雨
金盞花見事に咲いて春がゆく
山国の近くに住んでほととぎす
房総のまんなかさびしかたつむり
新しき世界はじまる鯛の海
朝顔の赤いところを見てふたり
新しき人を迎えて山の蟬
過ぎてしまえば一日という秋夜
奥山に風吹きとおり秋さりぬ
東京へ行ったり出たり秋の蟬